

第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時：

令和6年2月19日（月）13時30分～16時00分

■場所：

草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津） 401会議室

■出席委員：

乾委員、土山委員、森田委員、四方委員、齋藤委員、喜田委員、佐藤委員

■欠席委員：

中谷委員、出呂町委員、布施委員

■事務局：

【行政】

高岡部長、西山課長、坂居課長補佐、吉川課長補佐、中波係長、山元主査

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

茶木課長、栗田氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

秋吉課長、青木副参事

■協働コーディネーター

阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

無し

1. 開会

事務局 定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。本日は、公私共に御多用の中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

本日は7名の委員に御出席いただいており、3名の委員が欠席となっています。

さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第9条の規定に基づき、傍聴が可能となっておりますが、本日は傍聴の方はおられません。また、当委員会は、会議録について後日公表させていただきます。記録のため、委員会の様子を写真に撮らせていただきます事、御了承ください。

最後に、資料の確認をさせていただきます。

<担当者から資料の確認>

それでは、議事進行について、乾委員長よろしく申し上げます。

2. 報告事項

委員長 それでは、議事に移ります。まず報告事項について説明をお願いします。

事務局 資料1および資料2について説明

委員長 これまでの委員会で、そもそも委員会の役割は何なのかという話から話し合いをしてきました。これまでの話し合いを大きくまとめると、評価委員会という名称ではあるが、単に行政が出してきた資料を評価するだけではなく、それに対して方向性を示す役割だと思っているし、行政もその役割であると認識されています。前回の議事録や板書を踏まえて、質問やこんな大事な点が抜けているよという事等、欠席された委員からあればどうぞ。

A 委員 記録を見て、新しい取組をしてもらえたのかなと思っています。急な開催となったので、予定が合わず参加したかったができなかった。(ワークショップ形式を取り入れた事が) 新しいやり方でよかったのではないかと思います。

B 委員 市民の方は「見える」という事、行政は「つながる」という事に課題を感じておられるという事であるが、市民という立場から自分の意見をいうと、やはり市や中間支援組織が何のサポートしているのか見えない。前回の委員会に出席していたとしても、同じ意見を出したと思います。

委員長 新しいやり方というより、当たり前のやり方にしたいですね。またワークショップ形式の機会がもてればよいと思います。協議の中では、行政ががんばっているのは分かるけど、それを広く市民と共有していきたいという話が出たと思います。今日は、それをベースとした大事な話となります。

3. 協議事項

委員長 協議事項について説明をお願いします。報告のあと、自由に意見を言ってもらうので、委員の皆さんは付箋に意見を書いてください。

事務局 資料3の説明

コミュニティ事業団、社会福祉協議会から特徴的な事業について説明

委員長 資料の中で質問はありますか。

C 委員 まち協の中で進んでいるところと、そうでないところがあると思うのですが、その辺についてはいかがでしたか。

事務局 日頃まちづくり協議会連合会等で話す中での肌感覚で話します。特徴でいうと、例えば高齢化が進んでいるある学区では、町内会からの役員が屋台骨になっています。町内会長は1年に1度交代する中、これからは若い人に目を向けていこう、まちづくり協議会の事業もがんだりすぎても今背丈に合っていない部分は見直そう、という話になっています。そのような中から、若い人達にやりたい事をやっ

てもらおうという取組が始まっており、芽が出てきたところです。そのような学区が14学区のうち、4学区ほどあります。

取組の実績の成果は言葉で表すのが難しいですが、そのような取組の違いが市内でも出てきています。四方委員の学区は、昔からの町内会と新しい町内会との二極化が顕著な学区です。これは、別の学区でも起こっています。

高齢化が進んでいるところでは、空き家の草刈りなど個別の課題が発生してくる一方、地域の担い手が中々出てきません。若い人達にまち協事業に関わってもらおうとしても、共働きの多いので、土日の休日に会議に出てくるという負担感があります。例えば、秋のふれあいまつりを、若い人を募り、実行委員会形式で行った学区があります。後で聞くと、やってよかったという意見もあるのですが、若い人の中では、休みを潰してまで行かなければならない、夜の会議が負担であるなどの意見がありました。

そのようにまち協事業で役務が求められるので、町内会がまち協を抜けていくという相談も聞いています。今は過渡期であり、変わっていかうとしている学区と、変わっていくペースについていけず、問題が出てきている学区といろいろあります。進んでいるところは、興味関心に基づき、やりたい人が手上げ方式で出てきており、地縁型と市民活動団体の融合が少しずつ見えてきていると思います。

C委員 自分のところは遅れているのか、一周回って進んでいるのか分からない。

事務局 委員の学区は高齢化が進んでいるという意味では、市内での先進事例でもありません。もともと環境ボランティア団体があり、助け合いというところを超えて個人宅の剪定をやるという団体です。ただ、もともと70代で団体を始めてきた方達が80代になり、活動の継続が難しくなっているという話を聞いています。しかし、その活動に若い人を募ろうとしても中々人が集まらないという実情があります。時代に合わせて変えていかうと、丁度今されている学区だと認識しています。

C委員 資料3にカフェの内容があったと思いますが、自分の学区では大分前からしており、その担い手が高齢化してきて活動が続かなくなっています。色んな課題に対してトライして、また出てきた課題にトライするという繰り返しだと思います。

事務局 環境ボランティアの取組はすごく良いと思います。仕事を退職された方達がボランティア活動を通じて仲間づくりができるというコンセプトでされていました。それが段々色んな事業をするようになり、また年齢を重ねる事でしんどくなっている。

C委員 また、若い人がそれについていけなくなっています。今の二極化として、高齢化しているところは10年前から高齢化が進んでおり、若い世代の多いところは働きざかり、子育てざかり、しかも共働きの多い。土日ももったいないという若い世代からすると、ボランティアが楽しんでやっている事を自分に求められても苦痛に思うというように、人によって見方が変わってしまう。

- D 委員 今年自治会に入っていたが、同じ事業を継続する必要があるのかが疑問に思います。例えば、昔は洗濯機がなかったから洗濯機作りをする担い手の確保が急務であったが、今は洗濯機があるので、洗濯機づくりに人を確保する必要が薄いというように、ニーズを踏まえた取組が必要だと思います。
- C 委員 10年前にニーズと合っていて取り組んできた行事が、毎年繰り返してやっているうちに苦痛になってきて、よく考えたら要らない事業だったというような事だと思います。
- E 委員 プロジェクトベースは、プロジェクトベースで自主的にやっていた事が、続くうちに制度的になってくるとやらされる事になってきて、やらなければならないとなってしまう事もあります。
- C 委員 まち協事業に関わる委員が1年交代だと、1年間の間に新しい事を考えてやりなさいといっても無理。そうすると、前年の事業をする事になり、それが続いて気が付いたら何をやっているのか分からなくなる。そんな感じです。
- E 委員 そういうプロジェクトが定期的に変わっていけばよいのかもしれないですが、じゃあこれまでやってきたプロジェクトはどうするのという話になりますね。
- C 委員 コロナ禍で何も出来ず、ある意味何も無い状態を経験したので、今年度みんながんばって元に戻そうとしてしんどい、何をやっているのか分からない状態だと思います。
- F 委員 本来事業を始めた目的があるはずですが。例えば顔を合わせる事を目的に運動会をしたとして、高齢化が進み、若い人が続かなくなっても、やはり地域で顔を合わせる事は大切なので、じゃあ運動会でなくても、別の形ですればよいのですが、別の新しい形が1年でできるかといわれると無理だと思います。時代背景もあり、女性たちも今は仕事があり夜の会議も難しくなっています。
- C 委員 自分の学区では、いったん全部ゼロにリセットして、そこから必要な事が何かを考えています。2年位かけてやろうとしています。うまくいくかは分からないが、やっていた事をやめて何か問題が起こるかという視点で確認しています。
- E 委員 自分の経験として、3年ぶりに小学校の子どもを対象にラジオ体操をするという事をして、地域委員同士の中でやるかやらないかを相談する事になりました。私はやったほうがいいのかと思うけど、相手がどう思っているか分からないですし、お互いやるとは言いにくい。そのような事業のリセットもあるし、他の町内会との整合を合わせるために町内会同士で調整をした事もあります。毎年継続されているときにはなかったような問題が、コロナ後に再起動するときに出てくる。それを乗り越えるところと、越えないところと、そもそもやらないところが出てきました。やるとなった場合には、何年かぶりになるので皆さんテンションが上がり、それがまた疲れる事になります。去年は何年ぶりのイベントが多く、皆さんが疲

れたと思います。コロナのインパクトで相手との関係性も変わり、そこからリセットするという難しさが出てきたと思います。

委員長 四方委員の学区はリーダーシップがしっかりしていると感じます。色んな事を進めるときに、型が決まっていると良い面もあります。特に地縁組織では、嫌だなど思いながらも、例えば、若い人も顔を出さないといけないからと顔を出す事で隣のお年寄りと話すというような事もあります。

地域は親睦ベースで成り立っています。その型がずれてきたときにどうするかという事が大事であり、四方さんの学区ではそれができているのだと思いました。町の人の気分をつかめているかは大事な事です。意見を出してくださいとかではなく、広い範囲でもないのに、顔見知りの人がその辺にいれば、お祭りがよかったとか、手伝うのが嫌だったなどの意見も聞く事ができます。もともとはそうゆう関係で成立していたものが、成立しなくなっています。特に新旧で二極化している場合は、新しい町内会の人達の意見や考えを聞く事のできるチャンネル作りをする事が基盤だと思います。

町会長は1年交代が多く、1年交代はまず継続がありません。自分の町の課題が分からないまま、次に渡すという事になっていきます。そういう意味では役員構成などに工夫が必要かもしれない。運営が上手くいっているところは、何年か継続して町内会の役員をしています。ルールでがちがちに決めるのではないが、やれる力がある人が継続するような仕組みも大切だと思います。町内会の役員は1年交代で、協議会の人には継続して地域の事が分かってくるとなると、どんどんずれが出てきます。

また、1年交代でも、10年～20年すればみんな順番が回り、地域の事を分かってくれるだろうという考えもあります。あるいは必ず毎月会議をして、団体長と各町内会長が来るというルールにして、それぞれの課題を共有するという仕組みもあります。

福岡県では、協議会の構成や進め方を明確にしています。当然一人一人の意識改革を期待しますが、中々難しいので、人を育てる事と、仕組みを作って繋いでいく事が大切。全員で変える事は難しいが、中心になっている人が育てば仕組みを考える事が出来ます。

G委員 まち協が相談できる、コンサル的な役割がある事が知っているのかが分からない。助けてもらえるという事を知っていればいいのではないか。ふわっと知っているだけでは使えないので、具体的にどのような事をしてもらえるかまで知れるとよいと思います。資料4の話になるかもしれませんが。

委員長 ふわっとした話を自分の話につなげてくれるようなアドバイザー、地域の事を知っているアドバイザーが地域に入っていくと全然違います。言う事をきかせるのではなく、アドバイスするという事がどこまでできているのか分からないです。

G委員 アドバイスがある事で、地域や団体はとても伸びると思います。1人ではできないが、アドバイスがある事で、できそうになるというのが30代～40代の世代に言えると思います。

委員長 市はまち協に対し、勝手にしてくださいではなく、市とパートナーシップを結ぶ時の受け皿なので、アドバイスする機能が必要です。個人個人とやり取りするわけにはいかないし、校区ごとの課題の受け皿としてまち協を作ったとすると、そのように支える仕組みが必要です。困った時に相談してくださいではなく、困った時に地域を知っている人が横にいる事が大事だと思います。

C委員 相談に乗ってもらえるのは良いと思うが、決まった制度をやりなさいよ、では良くないと思います。

委員長 その校区で起こっている事を分かっている人、いわば半分足をつつこんだ人、あくまでも余所者の立ち位置はあるものの、半分足を突っ込んだ人が良いです。

C委員 客観的かつ寄り添いもある人が望ましい。

委員長 役所の顔も持っていて信用もあるというようなポジションの人が寄り添うと良いです。先ほどの体制の話でも、他所ではこうしているよという話が語れて良いです。

F委員 他学区との情報交換の場がほしいという意見について、自分はマンションのサポートをするNPOをしているが、マンションは社会の縮図といわれるよう、役員不足や高齢化といったここにある課題が全部出てきます。

マンションの研修会でも、60分の講演をしてさようならではなく、テーマを決めたうえで、これについて話し合いませんかという形で、後半は交流の場として自分達の思う事や困っている事を出し合う場にする、他のマンションの事が知れてよかったという声がたくさんあります。

それと同じだと思います。ヒアリング結果にあるような場を設けたらいいと思います。話題提供は行ったうえで1時間くらいの時間を設けると、事例をもとに、自分のところではこうだという話になります。できればテーマは決めた方がよいが、気軽な場を、意見があるのでやれば良いと思います。

E委員 テーマを決めておくと、テーマについて興味や課題に共鳴する人が集まるので良いという事ですね。その人にとっても役に立ちますね。

G委員 市で年末にこのようなイベントをしていませんでしたか。

事務局 2月に交流会を実施しました。学区のモデル事例を発表してもらい、それに対して質問できるような機会や、学区別で集まって5、6人で学区の話をする機会としました。まち協が来ている学区では、まち協でこういう事が困っているという話に対し、自分の団体ではこんな事が出来るという団体と繋がるような事がありました。

事務局 資料4にも繋がりますが、まちづくり協議会の意識の改革という事で、1年間か

けてまちづくり協議会連合会で、14学区の会長と、来年度以降の課題解決応援交付金の使い道について議論をしてきました。地域で課題を解決するための仕組み作りとして、3つの提案をしています。有償ボランティアの仕組み、ICTを使って会議等の効率化をする仕組み、新しい人達が参画するような活動です。各学区でもそういう事をしなければならぬという意識が出ています。

町内会長ばかりに頼ってはいけませんので、他学区の事例に習い、手上げ方式を取り入れようという動きも出ています。例えば、渋川では何でもやる会というのが立ち上がっています。中間支援組織の事業団が間に入り、アドバイスする事でやる気になる人が出てきています。その人達がやる気になり、先進事例を見にいこうという事で、2月3日に志津南学区と意見交換会をしたと聞いています。

学区同士のつながりができて、やりたい人が出てくると発展すると思っています。

あと、マンションの話では、大路区ではまずは意見交換会をしようとなり、防災の視点で危機管理課と連携して意見交換会をする事になっています。第2次計画期間中に、まち協と市民活動団体の視点から見ると繋がりが出ていると思います。

B委員 市民一人一人が主体的に参加する事について、ニーズをくみ取るためのチャンネル作りが必要で、定量的につかむのが基本ですが、住民の意見が反映されていると、自分の意見が反映されているという事がモチベーションに繋がりと、まちづくりに参加しようと思う人が増えると思います。そういった事が担い手づくりの第一歩になる。自分達みたいにあまり（地域活動を）知らない人のニーズ調査ができるチャンネルがあるといいのではないかと思います。

D委員 自分の周りの人が自治会に入らないのは、ゴミさえ出せばいいからと考えているからです。それ以外にメリットがないので入らないと言っています。メリットが作れるといいのかもしれない。

委員長 町内会がまち協から抜けるというのは仕組み上、非常に問題だと思いました。市にするとその学区の代表はまち協なのに、その代表の中に町内会がいなくなるという図式は、まち協を作った側としては何とかしなければならないと思います。地域にとってもそういう話があって、どうするかは難しいですが、福岡では町内会の8割が入っている事がまち協に交付金を出す条件となっており、抜けようがありません。

住民の考えをつかむのは町内会。校区全体では大きすぎて顔が見える関係とは言い難いく、繋がりを辿れば辿っていける程度の広さです。町内でも顔が見える関係は難しくとも、近所という意味では他に組織がないので、大事にしておかなければなりません。それは市としてではなく地域としてもです。その後の話は、地域毎となりますが、協議会を作るメリットとして、町内だけでは担い手がいないが、学区として見ると担い手が見つかるという事があります。システムの町毎に役員を出すのではなく、協議会は校区でがんばっている人や中心になっている人が担い、町からの代表者がそれに対して意見を言う等の仕組みも考えられます。仕組みの話もリアリティのある話としてアドバイスをすると良いです。当然やれという話ではありません。町内会がまち協から抜けていくと根本的に大変な話に

なっていくと思います。

事務局 ある町内会長から相談を受けています。学区では全ての町内会がまち協に入っていて、まち協に入るのが当たり前だが、その団地は高齢化が進んでいて、他の町内会と均等に役員を選出する事がしんどいのでまち協と距離を置きたいとの事です。14学区の中でも取組が進んでいる学区ですが、先進的に若い人達が事業をしている一方でそのような課題が置き去りにされているという状況もあります。

委員長 本当は学区毎に地域カルテのようなものがあるといいと思います。学区毎の組織体制や人口構成、地域活動、課題などがまとめてあると良いです。その話が分かった上で地域に入り込んでいく。一般論ではなく個々の学区に合わせたアドバイスをしていくという事が大事な話だと思います。住民自治だから住民が勝手にしてくださいではなく、住民自治ができるような仕組みを整えてきたのだとすると、それが走れるような伴走者としての役割を果たせるかどうかで変わってくる。そういう時期です。地域カルテは絶対必要ですね。

事務局 (地域カルテを) 持ってはいるが公表する事は難しいです。3年前に事業団と行い、この学区はどの意識が進んでいるという分析は行いました。それを基に、このタイミングでこの視点でアドバイスできたら良いという考えはあるが、内容を全て公表できるわけではないです。

委員長 公表はせずとも持っているのであれば良いと思います。

事務局 また、14学区全てに等しく事業団が深く入る事は、人員体制の事があり難しいです。当課でも、まち協から相談を受けますが、深く入ろうとすると一定の経験のある職員でないと難しいです。若い担当者では中々地域活動の経験もないので難しい場合もあります。

事務局 資料4に関する話も出てきていますので、そろそろ資料4について説明します。

委員長 結局、行政の姿勢と人員体制に問題がいきます。高齢者による見守りや、防災を全て市がするという昔に比べ、今後はそれが出来なくなってきました。ならば今、現場にお金を使ってほしい。地域とちゃんとコンタクトを取って、地域の形が出来るのを見守るという事をしてほしいです。

事務局 3年前に事業団の在り方を見直して、事業団に地域へ行ってもらった事も、成果が出てきている部分かなあとと思います。

D 委員 行政の仕事について、こんなに面白い仕事はないと思っていて、こういう場があったときに、何もせず退屈して時間が過ぎていくのではなく、今みたいにそれぞれが話したい事が出てくる事が大事です。熱量を持ってまち協に関わろうとしない人達からも何か意見が出てくるような空間。ネガティブな意見でもよいが、それぞれが何か引っかかって、自分もその一部になるような空間があれば良いと

思います。

委員長 資料4の説明を受け、資料3の話に戻っても良いという事にしましょう。

事務局 まち協に対してこうすれば良いという話が盛り上がってきたので、それを踏まえて、今は市や中間支援組織が行っている事業等について、資料4で説明させていただきます。

事務局 資料4の説明

E委員 まず、評価をするのは委員会ですか。資料4のまとめの部分は、市が文章を書いています。この委員会が書いた文章として使うという事ですか。

事務局 この文章をそのまま次期計画で使うという事ではなく、あくまでも市の考えをお示ししたものです。ここでのご意見を踏まえて、修正するものだと思っています。

E委員 最終的にはこの委員会の第2次計画の評価として出すという事ですね。

事務局 ご意見を踏まえて、第3次計画の中に、第2次計画ではこうでしたという記載を設けるので、そこに落とし込んでいく内容になると思っています。

E委員 資料4に書いてあるのは市の自己評価ですが、この委員会で責任をもって上げるという事ですね。コロナの事が考慮されておらず、AからFの項目が書かれているが、これを読んでいると何も心配無いというように見えます。ボランティア登録の方が400人減ったとか、社会情勢としての大きなインパクトに直面しているので、市や中間支援組織のせいではなくとも、そういった状況は書いた方が良いでしょう。草津はまだ高齢化がましですが、人手は社会的に不足しています。色んな体制の中で社会的、公益的な活動に割く人手が不足しています。色んな時間や労力が減っているという実感に直面しているという事は書いた方が良いでしょう。全体状況に対してこういう意識をもっている事は書いた方が良いでしょう。良い取組や新しい取組があり、テーマごとに集まって何かを考えるのは上手くいく事が経験として見えてきたという状況の中で、この辺りはよかったなという事が入ってくると良いでしょう。多くの地域や場面で人手不足に直面しているが、テーマやプロジェクトでの繋がりは見えてきています。これも制度化すると息切れしてくる可能性があります。また、アドバイザーは大切ですが、より客観性や位置づけが必要です。市でいうと、頼りになる中間支援組織がある一方で、前回のワークショップの中で繋がりというキーワードが出てきたように、市と現場との近さはどうなっているのだろうと思います。現場ではこういう人がいてこう動いているという事が、市の職員が協働を展開していこうと思った際に、協働の現場にいる人達とどうつながっていくのだろうと疑問に思っています。中間支援組織がいる中で、市と現場とどう繋がっていくかが課題ではないかと思っています。そのような課題が入るとリアリティが出るのではないかと思うので、記載内容に今の課題感が入るといいと思います。

事務局 今回の御意見について、第3次計画を作る際には社会情勢の課題を踏まえてから作らなければならないと認識しています。今は増加になっていますが、草津市も人口減少を迎えるという事や、コロナ禍の事も書いた上で作っていかうと考えています。今日の資料ではそこまで出せなかったのですが、今日は一旦資料3にある、まちづくり協議会から見える課題を踏まえて、市や中間支援組織でもっとこういう取組が必要であるとか、ここは良かったという意見をいただきたいです。

E 委員 市と中間支援組織の課題と方向性にも全体状況の関わりがあるはずなので、担い手の事や全体的な状況は全体の部分で書く部分もあるがそれぞれの部分でも考慮して書くとよいと思います。

委員長 報告の段階ではこれをベースにしながらで話していけば良いと思います。まずは自由に意見をしてください。

D 委員 まとめ方をもっとこうしたらという指摘より、同じ方向性を向いた方が良いと思います。まず、ボランティアをする人が少なくなっている、自発的にボランティアができるテーマが少ないという事が課題だと思います。色々な人が関わってける取組も、賢い、いい暮らしをしている人に向けられたものだと思います。そうでない人達も、人の役に立ちたいし何かしたいと思っている。そういう人に裾野を広げる事が大事で、トピックに引かかかっていない人がまだまだいるのではないのでしょうか。

B 委員 学生からすると、自分達以外は大人という切り口で、それがまち協なのか行政なのかNPOなのかは関心がない事が多いです。一方で、ボランティアに参加したいとは漠然と思っています。せっかく滋賀のキャンパスにいるので、地元に貢献する事がしたいという学生は、肌感覚ではたくさんいるので、うまくマッチングできるものがあればいいと思います。

委員長 その話は大事な話で、たくさん事業をやっているが参加者が何人かという話もあります。学生で何かやりたいけどチャンネルが無いとか、地域で実は隣のおばあさんの事を心配しているけど行動できていないといった状況を何とかするのは、第3次計画で大事な事になります。もう少し支え合いや仲間内の裾を広げる事が大事です。何かしたい人は増えています。すごく良い事をしていると思います。資料3にもありますが、こんな事が出来ましたという事を物語として入れてほしいです。事例の方が必要。もうやっているとありますが、社協は社協で地域を作っていて、コミュニティ事業団も地域づくりをしていて、そのすり合わせは出来ていますか。

社協 多分十分には出来ていないと思います。

委員長 事業団と社協と市。市が事業団や社協とどう関わっていくか、それを真ん中に置

いて市民団体とどう関わっていくのか、この2～3年でもその関わり方が変わってきていると思います。そこも踏まえた上でカルテを共有する事がすごく大事です。社協の駐車場の事例は社協だけでなくまち協も関わる話になります。全体のカルテは門外不出だと思いましたが、学区の人と共有する話もあって良いのではないかと。外から見た地域の状況を見せて、一緒にこれから考えましょうという地域との連携もあって良いのではないかと思います。最後に考えるのは地域です。社協がどれだけ何とかしてと言っても、細かい調整は地域でする事になります。それぞれの地域に寄り添って、我が事と思えるような関わり方の良い材料になると思いました。

社協 ぴかっと草津で、町内会長が20数か所の駐車場をお願いして回ったり、まち協の駐車場を使ったりという事が増えています。町内会の高齢化や崩壊が問題となっていますが、その中でも高齢化しているまちには高齢化に対する取組が生まれています。若い世代の取組もあり、それらが一緒に描けるといいと思います。そうでないと多様性が認められていない事になります。若い世代ばかり取り上げるのではなく、多様性を認められるまちづくり計画になればよいと思っています。福祉活動で地域に展開されている事がいっぱいあります。そのような事も計画に含めてもらえると社協としては有難いです。

委員長 町内で色んな取組をしている事は素晴らしい物語なので、それが共有されないのはもったいない。福祉活動はコミュニティ活動でまちづくりである。

事務局 行政は、高齢者の居場所、子どもの居場所と世代を分けてしまう傾向にあります。行政の縦割りの仕組みです。地域カルテを持って、暮らしの分野など横断的に入っていけるといいと思っています。各学区のまち協ではまちづくり計画を作っていて、それが地域カルテの代わりのようなものであるが、そこに暮らしの問題が入っているかという、そうではない。色んな事が出来る市民が増えています、それを取り込むという視点には欠けているかと思っています。

C委員 資料4を見ていて、実感が湧かないという印象です。何故かという、これに一体何人の人が参加しているのかが分かりません。学区に10年前からやっている居場所がありますが、そこに高齢者がどれだけ来てくれているのかが掴めていません。周辺のごく一部の人だけが使っているのかなとも思います。その辺の情報が欠落しているのかなと思いました。色んなイベント等をして学区の何人の人が恩恵を受けているのかは分からない事もあります。

事務局 イベントに単純に参加するだけではなく、運営に企画から参画する人がでてくるのが今後大事になってくると思います。

C委員 担い手としてそのような考えが大事です。

委員長 参加者も担い手も大事です。担い手も大事ですが、居場所というのはふらっと来て、私はここに来て良いんだと思える人がどれだけ増えるかが大事。当然担い手がいないと事業が出来ませんが。例えば1万人の人口で、1万人が参加するよう

な居場所はありません。本当は1つではなく、色々な人がやっている方が良い。これらは一般論で語っても仕方が無く、今この学区ではここが足りないよねというような話にする必要があります。この話を詰めていくと社協の話と繋がってきます。コミュニティ事業と社協がいて真ん中に市がいる。地域に入る時は縦割りではないはずです。

事務局 地域に入るときは防災や福祉の事を話す事もあります。まちづくりとはそういう事だと思います。

A 委員 資料3に有償ボランティアの仕組みを作りたいという話がありますが、資料4ではその答えがありませんでした。草津市のお金でという事なら予算の事もあるだろうし、想定されるゴールはあるのですか。

事務局 ゴールはまだ明確にありませんが、暮らしの問題として個人の生活に関わるような事は、よっぽどの顔見知りでないが無償ボランティアで関わる事が難しいと思います。地域全体が高齢化している場合、そこに地域外の人が入ろうとすると多少なりとも有償の方が入りやすいと思います。その仕組みを作るのに地域課題解決応援交付金を使ってもらおう。高齢化で町内会の役員はできなくとも、町内会に入っている事で今までの顔なじみの関係を持続しながらゴミ出し支援を受けられるという事であれば、町内会費から徴収してボランティアに繋ぐなどの取組も考えられます。このような事を掘り下げていきたい。また、人に役に立ちたいという人が行動に移れるのではないかと思います。

A 委員 そのような事を実現するためには、相談窓口や伴走者が必要だと思います。

委員長 実現しやすいのは事務局機能です。今の地域の課題はボランティアで解決する事は難しいので、事務局機能を有償で任せるといった地域はあります。草津もそういった仕組みになっていると聞いています。福祉のサポートについては、無償とそうでない人が混ざると難しいです。無償でやっている人は志でしているという人もいるので難しいです。仕組みを加える事になります。大阪では最初から、センターでお年寄りの面倒をみるのは時給いくらと決めています。すると、この業務は有償だと皆に分かりやすく、納得ができます。お金をまち協で稼げというのは無理な話だと思います。地域活動に近い形を仕事として出す方法、例えば学童等を行政が委託し、それで稼いだお金でボランティアに支払うという工夫をしているところがあります。町内会費からの工夫もあると思います。他所の事例やアドバイスを受け、うまく整理整頓する必要があります。ボランティアの有償化は必要だが入れ方が難しいです。

事務局 分野問わず始めるのではなく、整理してからでないと難しいと思っています。

A 委員 老上ではプリムタウンが出来て、若い人が多いので旗当番の問題があります。若い人はお金を払ってでも高齢者に旗当番をしてほしいが、最近、ボランティアで来

てくれた方が、お孫さんが卒業されたタイミングでおられなくなり、有償ボランティアの仕組みで継続して欲しいと思うのが難しいという問題が出てきました。実際にどうしたらママたちが有償でお金払ってでもしてほしい事を実現できるのか分からないです。

D委員 まち協の予算や決算を見ていますが、一体この300万で令和の時代の人は何人喜んでいいのかという疑問もあります。詳しくない人でも分かるので、詳しい人が見たらクリアに分かると思います。今の課題は旗当番だという事を誰が決めるのですか。

委員長 それがまち協だと思います。

事務局 意識の高い学区はそういう事にも関心を持っています。

委員長 まち協は弾力機構でもあります。ママ達が直接高齢者に頼む事は難しいが、まち協が間に入り、こういう要望があるからという事を高齢者に伝える事で解決できる事もあります。そのお金をどうするかは話し合いをすれば良いです。お年寄りのごはんを食べるお金にしても良いですし。

事務局 老上のハロウィン等の機会にそうゆう話も出てくれば上手く繋がっていくと思います。

G委員 自分のマンションだけで150人も子どもがいます。それをまとめるだけでも大変です。資料に先進的な取組が載っているまち協は限られているので、他のまち協は大丈夫かなと思います。

事務局 14学区の中で突出する学区が出てきて、他学区の参考になるような事があっても良いのではないかと思います。

委員長 それも良いですが、ある程度の仕組みは作っていかないと駄目です。旗当番の事は、悩むお母さん、お父さんが集まる事に価値があると思います。自分達が一番関心のある課題で集まっているので何かできると思います。

C委員 自分の学区でいうと、無償ボランティアで旗当番が成り立っているのですが、有償という概念を持ち込むと難しいです。何も無いところで、初めからそういう仕組みを入れるのはできるのではないのでしょうか。

G委員 この4月に今までおられた高齢者の方がいきなり旗当番からいなくなりました。どうゆう事が確認すると、その方はボランティアなのでやめましたと。

委員長 そういう意味では気付きの場にもなったという事です。今の若い人は、行政がしてくれる事に慣れているので、サービスを喜んで使うが、自分もその一部を担うという意識があまり無い。

福岡では、借家ばかりの賃貸住宅が多いところで、子ども達の安全を守りたいおやじの会があります。でも地域活動は手伝いたくないので、自分達だけで団体を作り、活動資金もお祭りで餅を売ってかせいでいるという事例です。

C 委員 まち協に密着したボランティアと別にやった方がやりやすいボランティアとありますね。

社協 ボランティアセンターを運営していると、有償ボランティアは本当に難しいと思います。ボランティアの善意の歴史を消してしまう懸念もあります。まちづくりという意味では突出している地域を出さない方がよいと思います。どこは有償ボランティアあるが、ここは無いというような事がないように丁寧にした方がよいと思います。テーマ型でいうと、立命館大学のアメフト部がスクールガードをしている事例があります。地域に参画したい学生と、担い手がいない地域の高齢者とがマッチングしました。このように資源を上手に活用する事が暮らしにマッチしていくとよいと思います。

委員長 事務局機能の有償化は必要だと思っています。そうゆうところは40～50代が働いています。そうでないと70代になってしまいます。今日は非常に大事な話が出て、最初の話としては、既存の活動を整理しないといけない、役員が1年という仕組みも整理が必要、地域に寄り添うアドバイザーが大事という事です。全体総括として、ここまできたという事も整理が必要です。物語として、通り一辺倒ではなく、具体的な話で総括をしてほしいです。また、地域カルテはあるので上手く共有されていない事が課題ですね。地域に寄り添う専門家が、地域の情報を持ちながら関わる事も大事です。これらの事について、どこまで出来たのか、どこまで出来ていないのかという評価になると思います。本日はこれで終わります。次は5月に開催を予定しています。

事務局 いただいたご意見を参考に、第3次計画の策定に向けて準備を進めていきます。本日はありがとうございました。